

## 7.6 天の川の渡河方法

私の住まいの近く湘南平塚で新暦 7 月 7 日に行われる七夕祭りは有名なのですが、私は、まだ行ったことがありません。

新暦七夕は、なんとなく、七夕といわれてもねえ、という気持ちがどこかにあって、単なる商売のための行事にしか思えて仕方ないんですよ。

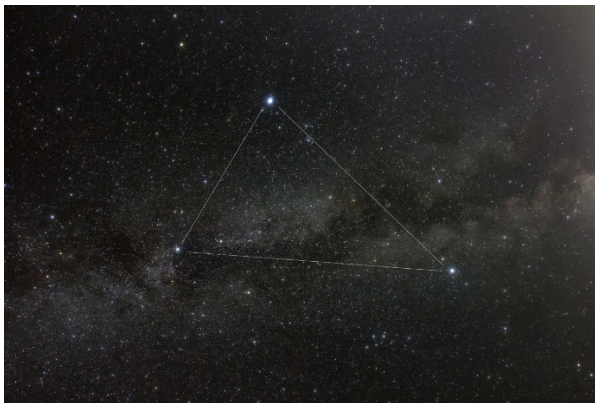
そもそも新暦の 7 月 7 日は、大体は梅雨の真っ最中だし、そもそも、晴れていてもお月さんが邪魔して天の川なんぞ見えやしないときもある。

旧暦 7 月 7 日は、常に上弦の月だから、前夜 6 日の月の入りはほぼ夜 10 時すぎ。晴れていると、夜半過ぎには月は消えて、牽牛くんが渡る天の川はちゃんと見えるんですね。

いつの頃からか、私たちは、7 月 7 日の夜の空を見上げるようになってしまっているけれど、これはテレビの阿呆アナのせい。

七夕の行事は、昔から 7 月 6 日の夜から 7 月 7 日の明け方にかけて行われるのが古くからの慣習。7 月 7 日の「夜明けの晩」なので、「夜更けの晩」じゃあないんですね。

旧暦 7 月 7 日の午前 1 時には、天の川を挟んで、彦星アルタイルと織姫ベガが一番光り輝く形になるのです。下の写真は夏の大三角。上がベガ。右下がアルタイル。左下がデネブ。



6 日に願いを書いて飾った笹を、7 日の明け方、川に流すので（今は不法投棄になります）、7 日の夜まで飾っているのでは未練がましい。

だって、二人の逢瀬はもうとっくに終わっているんですから。

さて、新暦の七夕では、雨が多いから、二人が天の川に阻まれて逢えないことが多いとされていますね。

理由は、雨が降ると、天の川を渡るための「臨時応急仮設橋」が、架けられないというものです。

この臨時応急仮設橋、最近よく知られるようになってきていますが、「鵲（かささぎ）」が羽を広げて渡す橋。

有名な百人一首の中の大伴家持の歌の「カササギの渡せる橋」ですね。

鵲の 渡せる橋に 置く霜の 白きを見れば 夜も更けにける

でもね、私、雨が降ったら橋が架からないという説に反対なんですよ。

どうして雨が降ると、かささぎクン、出動拒否なんですか。

年に僅か一回の仕事で、名を上げているくせに、ちょっとひどくはないですか？

まるで、年数回の会議出席で 1000 万円を超える手当をもらっている〇子力関係の委員みたいじゃあないですか。

そういえば、かささぎクン、ヨーロッパでは評判悪いんですね。イギリスでも、ドイツでも「おしゃべり」の「カササギ野郎」って言われてましたっけ。

あ、そうそう、ロッシーニの歌劇にも「泥棒カササギ」ってありますよね。

え、何が言いたいんだって？

スママセン。

実は、万葉集を読んでいますとね、この天の川伝説を歌った歌がかなりあるんですが、その多くが、彦星クンが、織姫さんのところに行くために天の川を渡る舟を出すという歌なのです。まあ、見てください。

久方の 天の川瀬に 舟浮けて 今夜か君が 我がり来まさむ (巻 8-1517)

(今宵、あなたは、天の川の川瀬に舟を浮かべて、私の許に来ていただけるのでしょうか)

彦星の 妻迎へ舟 漕ぎ出らし 天の川原に 霧の立てるは (巻 8-1527)

(彦星が織姫を迎えに行くという伝説の舟が、たった今漕ぎ出たようです。天の川の辺りに霧が出てきたところを見ると。)

天の川 霧立ちわたる 今日今日と 我が待つ君し 舟出すらしも (巻 8-1765)

(天の川に霧が立ってきました。今か今かとあなたを待っている私の許に向けて、きっと今、あなたが舟を出したのでしょうか。霧に隠れてあなたの姿が誰にも見られないように)

これらの歌からわかりますように、雨が降っていないとき、彦星クンは、舟を漕いで天の川を渡って行ったのですね。

え、カササギの出番がない？

えー、ですからね、私は、雨が降っている時こそ、カササギが羽を広げて天の川を渡る橋を作り、彦星クンを渡したんだと思うのですよ。

たとえ、天の川が洪水になったとしても、カササギクンなら、空中で橋を架けることができる筈ですから。

つまりね、雨が降ろうが、年に 1 回の逢瀬をばーにするほど、天帝はひどいやつではないということですよ。

でもね、この説、今のところ、誰も支持者がいないんですね。  
相変わらず、妄想に近い圧倒的少数説。

## 7.17 山鉾巡行

今日は、京都八坂の祇園祭りの山鉾巡行の日。

この日は、なぜか毎年暑いですね。

一年に一度、9基の鉾と23基の山が、市内中心部をゆっくりと回ります。

巡行の一番先頭は決まっています「長刀鉾」。

この鉾の上には小さな少年（稚児さん）が乗っていて、麩屋町のところに張られている注連縄を刀で切る「注連縄切り」はテレビで報道されますから、よくご存じですよ。



この少年、結構偉くて、正五位の少将。  
へえ～、ですよ。

ところで、「鉾」と「山」はどう違うのか？

実は、これ、なかなかややこしくて、私にもよく分からないところがあります。

普通の「鉾」は、屋根の上に長い「真木」が立っていて、そのてっぺんに「鉾頭」が付いていて、その鉾頭が何かで鉾の名前が決まっています。

長刀鉾の鉾頭は、長刀。病災厄をなぎ倒すのです。

でも、屋根の上に真木がないのに、鉾と呼ばれているものもあるんですよ。

例えば、船鉾と二つの傘鉾。

一方の「山」の方も、鉾とそっくりなのに、真木がない「曳山」と背の低い「鼻山」があります。

しかし、この時期の暑さのせいで、暑さに弱い私は全ての山と鉾を見たわけではありません。

ですから、どうもきちんとした説明があるようなのですが、昔、教えてもらった方によっ

て説明が違っていたので、私の中では、まあ、どうでもいいか、ということになっています。

さて、古くからの京都市民の方を除いて、全国の殆どの方は、山鉾巡行が祇園祭りだと思っておられるのですが、これは、後の世に京都の町衆が付け足したお祭りで、本当の祇園祭りは、山鉾巡行が終わったあと、午後 6 時すぎ頃から始まる八坂神社の神幸祭。

八坂の祇園社の神様は、あの暴れん坊の素戔嗚（すさのお）クンたちなんですが、これが、3 台の神輿（中御座、東御座、西御座の神輿）に乗って、出てくるのですね。

これらが祇園石段下から、それぞれ別のルートを通って、練り歩き、鴨川を渡って、昔の京都の町に入り、四条寺町の御旅所に、午後 9 時から 10 時頃までかかって到着するのです。

こちらが、祇園祭りの本番。

そのあと、神様は、24 日までの 7 日間、御旅所に滞在します。

7 日間だけ、神様が町衆のところに出てきて、みんなの願いを聞くのですね。



言い伝えでは、この 7 日間、誰とも言葉を交わすことなく、御旅所に詣でると願いが叶えられるそうです。「無言参り」といって、お百度と似てますね。

24 日になると、「後祭」の山鉾巡行が行われ、神様は八坂にお帰りになるのですが、昭和 41 年、市内の自動車通行の支障になるとい理由で「後祭」の鉾巡行は取りやめになっていたのですが、今年から復活しました。

スゴイですね。昔は、自動車交通は市電を廃止させるだけでなく、鉾巡行まで止めさせる力を持っていたのです。トヨタ大明神は、祇園祭りの神様より強かったということですかね。

ところで、この後祭の 24 日に八坂の祇園社にお帰りになったあとでは、いくら神様にお

願いをしても、もうお願いは締め切られた後。

つまり、「後の祭り」

聞いてはくれないのですね。

山鉾巡行の鉾と山の中で、一番人気は、なんとといっても「長刀鉾」だと思いますが、派手さはないものの、私は伝説や物語や謡曲に基づいた「山」の方が面白いものがあると思いますね。

牛若丸と弁慶が登場する「橋弁慶山」。

宇治川合戦の源三位頼政方で奮戦した三井寺僧兵筒井浄妙の「浄妙山」



和泉式部のために紫宸殿の梅を手折る武将平井保昌の「保昌山」。



歴史や言い伝えを知っていると、祇園の山鉾巡行は 100 倍も楽しく見ることが出来ます。

## 7.23 浴衣の君

昨夜の9時過ぎに、山手線に乗っていましたが、突然、新橋あたりから、どやどやと「浴衣の君」たちが、乗り込んできました。

なんじゃ、これは？

と聞いていたら、隣に坐っていたオジさん、「今晚、墨田の花火なんですよー」。

大井町で東急線に乗り換えても、どこからか、わらわらと浴衣の女性たちが湧き出てきて、電車は満員。

これも墨田の花火？

まあ、久しぶりに人前で長時間お話しした帰りで、ひどく疲れていた私にとっては、目の保養にはなりました。

ただ、どういうわけか、車内はすごくうるさい。

これに比べると満員の通勤電車なんて、静かなモンですねえ。

よく見ると、電車の中では、普通、仏頂面してスマホなるものにとらめっこしていることが多い彼女たち、団扇を片手に、誰も指を動かしていないで、口を動かしているんですね。

突然気がついたのは、スマホには、カニを食べるのと同じ効果があるんだということでした。

スマホがない時代は、電車の中はこんなにうるさかったんですねえ。

さて、彼女たちの殆どが、黒か紺の地に派手な花模様が描かれた浴衣で、かなり高い位置で、いやに幅広い帯を締めていて、昔、若い頃、私などが連れだって花火見物に行った彼女達とは、随分格好も違います。

私の記憶の底にある彼女の姿は、白地に紺の模様が描かれた浴衣で、髪を結い上げた襟もとがなんとも言えませんでしたけどね。

それに、下駄を履いた足首がきゅっと締まっていて、これでTKOされた人も多かったんじゃないかなあ。

まあ、しかし、浴衣が派手になったのと逆比例して、女性の涼やかな色気はどっかに行ってしまったようで、下駄の先は外側を向いているし、襟元は崩れかかっているし、親御さんは、娘さんに浴衣を買ってあげるだけで、なにも教えないんですかね。

ま、オジ(い)さんの繰り言ですけどね。

でもね、大井町から乗ってきた浴衣姿の外国人女性を見た後は、これくらいは仕方がないかと思うようになりました。

日本の若い女性に連れられた二人の外国人女性、襟元はすっかりはだけているし、裾は広がっているし、バタバタと団扇で袂から風を送り込んでいるし、思わず目を逸らしましたね。

もっとも、彼女たちに付いていた日本の女性も着物なんか着たことがないことがすぐ分かるような人達でしたけど。

ところで、180~190センチくらいある外国女性用の浴衣って、どこかで売っているんですかね。

販売先に、浴衣にボタンを付けた方が良くないかと忠告したくなっただけですけど。ホント。



## 7.26 幽霊の日

今日、7月26日は、幽霊の日だそうです。

今から200年ほど前の文政8年、江戸日本橋にあった中村座で「東海道四谷怪談」が初めて上演されたのが謂われのようです。

わが国で最も古い幽霊さんの話は、日本書紀にあり、雄略天皇9年（465年）、応神天皇陵の傍を通りかかった男が、赤馬に乗った幽霊と馬を交換したけれど、次の朝起きてみたら埴輪だったというものですから、随分古くから幽霊さん出ているんですね。

ところで、幽霊さんというのは、この世に強い思いを残して死んだ人の霊と言われていきます。この思いが非常に強いので、魂が成仏せず、この世に留まっているものという点で、お化けなどとは明確に区分されます。

亡くなる時の無念や未練が余りに強いため、その無念などが晴れない限り、幽霊さんは消えてはくれません。

その無念が、特定の他人によってもたらされた場合、幽霊さんは、その人がどこにいても、出てきますし、恨みが晴れない限り、いつまでも出てきますから、ちょっと厄介です。

美しい女性の幽霊で「恨めしやー」なら、まあ、出られる方も我慢できるでしょうし、ひたすら謝れば、許してくれそうな気がします。お岩さんのように「一念通さでおくべきかー」とくれば、これはもう謝ってもダメですね。

心当たりのある方は、この夏、お気を付けください。

え、そんな非道いことはしていない？

それね、こっちがそう思っているだけですよ。

幽霊さんの場合、こちらの思いに関係なく、幽霊さんがどう思っているかによりますので始末が悪いんですね。本当にこちらに非がない場合でも、弁解して分かってもらえるとは限りません。

ところで、幽霊さんの中には、このように特定の人を相手に出る幽霊さん（浮遊霊）の他に、地縛霊といって、特定の場所に出るものもいるんですね。

こちらの方は、特定の相手に恨みを持っているわけではありませぬので、一般人に対しても現れます。幽霊トンネルとか、幽霊屋敷とかですね。

こちらの方は、その場所に近づかなければ大丈夫ですが、不幸？なことに偶然に出くわすこともあります。このケースの幽霊さんは、それほど人に害を加えないのが普通ですので、それを知った若い人達の中には、わざわざ見に行くものもいるようです。

幽霊さんが現れる時間帯は、新人幽霊と古参幽霊とでは違うようです。

**四つ時に 出る幽霊は 前座なり**

これは、落語の中で出てくる句ですが、新米幽霊は早い時間に現れ、古参幽霊は出る時間が遅いというようになっているようです。

でも、私に言わせれば、これは違うのではないかと思うのですね。

幽霊屋敷などにでる地縛霊の場合、だれもいない丑三つ時に出てきてもしょうがないから、人がいる四つ時（10～12時）に出なきゃいけないわけです。

特定の人に恨みをもっている場合は、他の人達が一杯いる中ででてきても、効果が薄い。たった一人で心細く思っているときに出てきて初めて効果絶大ですから、他人が減多に現れない「丑三つ時」に出てこなければならない。

私、かねがねそう思っているのですが、落語には勝てやしませんね。

次に、幽霊と足の件ですが。

最近の映画に出てくる幽霊さん達は、私の知る限り、みな足があります。

大林監督の映画「異人たちとの夏」の三人の幽霊さんも、足がありました。秋吉久美子さんや名取裕子さんの幽霊なんて、足が色っぽい。いいですよええ。

これで足がないと、見る気がおきない。絶対。

戦後しばらくの間まで、幽霊には足がないというのが定説になっていたようですが、どうもこれは、これは江戸の中期に当たる頃から始まった説のようで、それまではちゃんと足があったようですから、元に戻ったと言うことでしょうか。

足のない幽霊を描いたものとしては、なんと言っても円山応挙が有名ですね。

応挙の筆になると言われているものは何枚かあるのですが、ナンデモ鑑定団でもおわかりのように、応挙作と言われるものには偽物が多く、真筆かどうかははっきりしないところがあるようです。

確実に真筆とされるものは、カリフォルニア大学バークレー美術館にあるものと弘前市の久遠寺にあるものだけとされています。

これは、「幽霊画」（お雪の幻）と呼ばれていて、応挙の亡くなった奥さんの姿と言われています。



写真のように、上半身だけが描かれていて、下半身は余白の中に消えているのですね。これを見る限り、個人的には、足を含めて下半身は、この世ではよく見えないというのが適切なような気がします。

これには、幽霊さんたちは、こちらの世界に出てくる時は、足を向こうの世界に置いてくるという言い伝えが影響しているのですね。

### **幽霊の 留守は冥土に 足ばかり**

という江戸川柳が残っていますから、八つつあん、熊さんから「大家さん、なんで幽霊には足がねえんで」と聞かれた大家さん、苦し紛れに、「ありゃあ、冥土の入り口に置いてきてんだよ」

そう言ったに違いないのですね。

## 8.1 幽霊とお化け

例年より暑いと言われた北海道ですが、それでも東京に帰ってくると、今更ながら東京の蒸し暑さに辟易としています。

涼しい夏より暑い夏の方が景気が良くなると言いますが、我慢にも限度があります。テレビで涼しい顔で「当分この暑さが続きます」なんて言っている気象予報士（特に男の）を見ると、罪のないのはわかっているけど、「このヤロー、いい加減にしろ」と思ってしまいます。

これだけ暑いと、夏が出番の「お化け」も「幽霊」も働きづめで、疲労困憊ではないかなと思ってしまうのですが、お化けはお化けでも、政界の「お化け」たちは元気一杯のようで、暑さなんか屁のカップ、出番が多いことを喜んでいるようにしか見えません。

ところでですが、お化けと幽霊の違いはどこにあるのでしょうか。

昔私が読んだ本の中では、過去に生きていた人の魂が成仏せず、この世に留まっているものが「幽霊」、自然のものや人間が生きていくために作られたものに宿る霊が何らかの理由で、この世に形を取って現れるのが「お化け」と書かれていたように思います。

「幽霊」が元々が人であるのに対して、「お化け」の方は、元々は「もの」か人以外の生物。ものや生き物にも宿るとされている霊が奇怪な形を取って現れるのがお化けのようです。例えば、猫や狐などが余りにも年を経ると化け猫になったり、九尾の狐になったりするケースが生物のお化け。でも最も多いのは、人間がものを粗末にし、棄てたりすることによってお化けになるケースだそうです。古いところでは、「唐傘お化け」や「提灯お化け」などですね。水木しげるさんのゲゲゲの鬼太郎に出てくるのは、こちらのもの（九十九神系）が主流派のようです。

最近では、余りにもものが溢れていて、使い捨ての世の中ですから、このパターンのお化けは増えすぎて出る機会が少なくなっているようです。

その代わりとってはなんですが、最近では、まとめて廃棄物処理場の付近などにしばしば「廃棄物公害」という名前で現れるのが多くなりつつあります。

お化けの方も、現代的な現れ方の工夫をしているのかも知れません。今の人達に、提灯お化けと言っても、もう通用しませんからね。

お化けは、幽霊と異なり、相手を選ばず、昼夜を問わず現れますが、その目的は、人を驚かすことにあるので、人が外に出ない丑三つ時には出ても無駄ということで、滅多なことでは現れません。

お化けは、人がびっくりして逃げることを喜ぶ「愉快犯」ですから、普通は人に危害をくわえることはないようですが、余りに扱いがひどいと危害を与えることもあるのだと思ひ

ます。

こうして見てくると、お化けの方は、私たちがものを大切にすることや優しく扱うことで基本的には対応できると思われませんが、私達が余りにもエネルギーの無駄遣いをしていたせいか、最近では原発事故というこわーいお化けが出ましたね。

一方、幽霊の方は、元々は人。

一応、死んでからも素直にあの世とやらに行けない方々が主流ですから、白装束を着て出てくるのがオーソドックスなスタイルですね。

### 幽霊になると 平家も 源氏なり

というのは、生きていた頃は赤旗と白旗で争っていても、幽霊になってからは、源氏も平家も白装束になるという意味ですね。

さて、幽霊になるのは、元々は無念や恨みが原因ですから、その思いが余りにも強いと、生きていても、相手に取り憑くことがあることは昔から言われていました。源氏物語の六条御息所の生き霊というのが有名ですね。 写真

最近では、死んでからでは遅いとでも言うように、生きているうちに取り憑くケースが多くなりつつあるようです。



先に挙げた最近の政界のお化けと言われる人達は、この分類では、お化けではなくて、「幽霊」に仕分ける方が正しいのかも知れません。

まあ、とにかく、こちらの方は、無念や恨みを晴らすまではなかなか消えてはくれないので、誰かが成仏させてやる必要がありますが、マスコミ屋さん、どうです、世のため人のため、こういう生き霊の方々に引導を渡すくらいはしたらどうですかね。

## 8.4 箸の日

昨日、前期の期末試験の答案用紙が送られてきて、今日からは採点。

朝から今まで、一日中、山のような答案用紙に取り組んでいましたが、疲れてしまいました。暫時休憩。

閑話休題。

今日は「橋の日（箸の日）」なものですから、「橋」か「箸」の話をとったのですが、橋については何度かお話ししたことがありますので、今回は「箸」について書いてみます。

皆さんのうちにお客様があるとき、食事（客膳）に添えて出す箸は、割り箸が普通ですね。

最近では、新築祝いなどで若い方のうちによばれると、ときどき綺麗な塗り箸が出てくる場合がありますが、でも、これはやはり、割り箸が礼儀でしょうね。

客膳の手元箸に割り箸を用いるのは、お客様に、誰も使ったことのない、新品の箸を使っただけという心遣いですからね。

ところで、最近、地球に優しいということで、何回も洗って使える箸が食事処でも出されるようになってきましたが、基本的には異議がないものの、やはり、私は、食事処では、割り箸以外はダメですね。

ところで、この割り箸にも、ピンからキリまであることはご存知の通り。

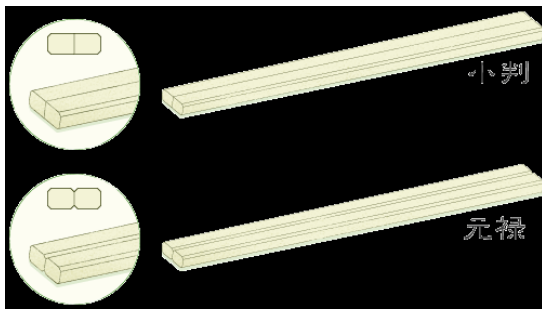
高級料亭など、比較的高いお店で出されるのは、両口箸の「利休」か、片口箸の「天削（天扮）」が普通ですね。天削（てんそぎ）箸は、上部（天井部）が大きく斜めにカットされているのが特徴ですね。写真上が利休。下が天削



両口箸は両端が細く削られているのですが、天削の場合、料理を挟む部分は、四面が面取り加工されています。

それほど高いお店ではない普通の食事処で出されるのは、「小判」或いは「元禄（小判）」。

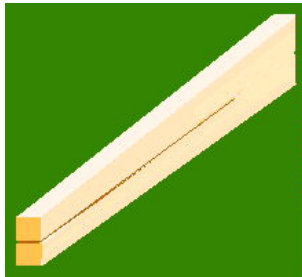
これは、箸の四つの角を削って面取り加工がされているところから、上から見ると、小判の形のように見えるところから、この名が付けられています。



上記の四つの箸の多くは、ほぼ日本製。

ところで、学生食堂や駅の蕎麦屋さんに置かれている箸は、「丁六」と呼ばれるもので、四隅の面取りがなく、上から見ると四角形。

「丁六」という言葉は、今では余り馴染みがないけれど、江戸時代の銀貨「丁六銀」からきたもので、小判と違い、庶民の身近にあって、小判より下ということですかね。



これのほとんどは、中国からの輸入品です。

安いという理由で使用されている中国産「丁六」は、日本の割り箸の95%以上を占めているのですが、最近、値上げが問題になっていますね。

自然環境の維持の観点からは、この種の使い捨ての割り箸はやはりマイ箸にすべきだという意見には私も賛成で、スーパーのポリ袋と同じように、マイ箸を持ってきた場合、5円引いてくれる仕組みを提案すべきですね。

これに対して、

利休、天削などの箸は、柾目と白木が美しく、日本の食事には不可欠なものだと私には思えます。

こうした割箸の多くは、日本の森林の多くを占めている杉や檜の間伐材や端材を使って、これを使うことは、手入れされないで放置されている日本の森林を保全するための費用の一部となっています。

ですから、私たちは、日本の森林を守り、育てていくために、国産割箸を使う必要があります。

輸入割箸と国産の割箸を区別しないで、地球環境のためには、割箸はよくないとする考え方は、基本的なところで間違っていますし、何よりも、日本の自然を大切にする心から生まれ、割箸を芸術品のレベルまでに引き上げた日本文化を損なうものと、私は思います。

近年日本の割箸文化は、木を使用することから誤解され環境問題の対象となっていますが、昔から端材等を利用したこのようなものは、日本人の物、自然を大切にする心から生まれたものであり、また現在は手入れされないままの人工林に自然の循環を蘇えらせるために必要な間伐材の価値の向上に貢献できる大切な役割を担っています。

日本の食文化と結びついて、森林保護のためになる割り箸と、見境なく木を切り倒して、大量に輸入された安い割り箸とを、区別して、賢くマイ箸を使う習慣を育てるための仕組みを考えていかなければならないと思っている「箸の日」です。



## 8.8 真夏の天ぷら

暑いブー、と言っているけど涼しくなるわけではないので、例年、この時期には暑気払いに鰻を食べに行くことが多いのですが、今年は、鰻がバカ高値で、とても馬鹿馬鹿しくて食べに行く気が起こりません。

そこで、暑い頃に自宅では絶対にこしらえない天麩羅を食べに行くことにしました。

天麩羅は、夜は高いのですが、昼間は安いんですね。  
ちなみに、行ったのは「銀座天国」のみなとみらい店。  
空いてました。

ところが、昼食の後入った喫茶店で、奥方どもが頼んだのが、スイカのフラッペ。

えー？

天麩羅とスイカって食い合わせの典型じゃなかったっけ？

止めといた方が、って喉まで出かかったけれど、考えてみれば、他人の腹。  
徳川家康のデブった肖像が浮かんだけれど、食べ物に関して、女性たちにコメントをして今までハッピーになったことがないことを思い出して、ここは我慢。

家に帰って、徳川家康の最後を調べると、確かに鯛を糠の油で揚げたものを食べて腹痛を起こして、数ヶ月後に亡くなっているのだけれど、これ、旧暦1月のことなんですね。

私、てっきり、暖かい季節の食中毒と思っていました。

それに、これ、鯛の天麩羅じゃなさそうで、鯛の唐揚げみたいでした。

良かったあ！ スイカのことなど持ち出さなくて。

家康クンのせいでもないんだらうけれど、今のような形の天麩羅（魚介類や野菜に衣を付けて油で揚げたもの）が食べられるようになったのは、江戸時代の中頃以降だそうです。



今のような形の天麩羅が日本に入ってきたのは、16世紀の中頃、ポルトガルからでしたから、江戸で庶民が天麩羅を食べるようになるまで、200年くらいかかっているんですね。

江戸の庶民の三大ファストフードといえば、蕎麦、握り寿司、天麩羅と言われるのですが、天麩羅だけは随分遅れて後から加わったようです。

どうして？

手元にある「てんぷらの本」(柴田書店)によると、油が高かったせいのように、油で揚げる料理は、金持ちしか手が出なかったみたいです。

油を食用に使えるほど生産力が上がって、やっと庶民も揚げ物を食べられるようになったけれど、それでも油は高いもの。

古い油を何度も使うので、油煙が立って、屋内で揚げると、もくもくと油煙が充満して、そこら中べとべとになったんでしょうねえ。

ですからね、天麩羅は、屋台で食べるのが普通でした。



それに、家の中で揚げると、火事になる危険が高かったので、天麩羅は屋台と決まってきました。

今のように、家の中で天麩羅を揚げて食べさせるようになるのは、意外と新しくて、明治になってからのようです。

私が行った「銀座天国」は、銀座では最も古い天ぷら屋さんですが、それでも創業は明治18年。牛鍋屋よりずっと新しいのですね。

ところで、江戸以外では、魚の播り身を油で揚げたものを「天ぷら」と呼ぶことが普通のようにです。そういえば、宇和島のジャコ天はつけ揚げですし、福岡の天ぷらうどんなどは「つけ揚げ」がうどんの上にどんと乗ってますね。



鹿児島勤務時代、イヤと言うほど食べた「つけ揚げ」。関東では「さつま揚げ」。

これは、琉球から伝わったもので、ポルトガルから伝わった天麩羅とは別系統。  
琉球で「チキアーギ」と呼ばれていたものが「つけ揚げ」になったとこの本では書かれています。

但し、こちらの方も歴史は新しく、薩摩に入ってきたのは、弘化三年（一八四六年）となっています。

さて、江戸の天麩羅は、語源が定かでないようですが、ポルトガル語の「tempera テンペーラ」（調味料）「tempero テンペーロ」（調理）説が有力だそうです。

漢字の「天麩羅」は、当て字とはいえ、この「天」を「あめ」と読むと、「ふ」と「ら」で「あぶら」と読めますから、この漢字を考えた人は、なかなかやりますね。

別の説（山東京伝）では、「天」は天竺、「麩」は小麦粉、「羅」は薄い衣。

「天」は、天竺浪人が屋台で売ったからのようですが、「天竺」は、「逐電」の逆読みから来ているって知ってました？

ア、ハ、ハ。

暑い日には、こういう下らない話もなんとか読んでもらえますかね。

江戸には下らない話に違いないですが。

### 8.13 熱中症もどき

水分は、十分すぎるくらいに摂っている。暑い日なたには滅多に長時間でないし、出るときには帽子をかぶって、日陰を選んで歩く。

家の中では、28度を超すと、クーラーをかけて体力の消耗を避ける。

こんなに気をつけているのに、一昨日、熱中症らしきものにかかってしまいました。

もともと、これまで熱中症にかかった経験がないから、その症状を知らないので、ホントにかかったかどうかちょっと怪しいのだけれど。

まあ、とにかく、強い日差しの中を10分程歩いていて、突然、立ちくらみというか、めまいがして、動けなくなって、木陰まで這っていったのだから、目出度くこの頃流行の熱中症にかかったと思っても、不思議じゃないでしょう？

後ろを歩いていた同年配の男の方が、駆け寄ってこられて、木陰のベンチに座らせてもらって、冷たいアクエリアスをもらって、「救急車を呼びましょうか」というのを有り難く断ってしばらく休んでいると、首から後頭部にかけてのボワンとした感じが薄れて、動けるようになったので、タクシーで帰宅。

危うく、「今日の暑さで全国で熱中症で病院に担ぎ込まれた方は\*\*\*名でした」の一人に勘定される所でした。

とはいえ、一方で、ちゃんと熱中症かどうか判断してもらった方が良かったかなあ、なんて思ったりして。

「この前、ボクねえ、熱中症にかかって救急車のお世話になったんだよ、別に長時間表にいていなくてもなるんだねえ。」なんて、酒の肴が一匹逃げたのは惜しいことをしたと思ってるんだから、我ながら、馬鹿みたい。

え、ホントに馬鹿？

いやいや、なって見れば分かります。

それはさておき、そのせいで、ベッドに横になっていても、居眠りをしているかテレビをみているかしかりません。

テレビは、どこを回しても、聞くにも見るにも堪えないタレント様方のお遊びの中継か、オリンピックの録画の繰り返し放映のどちらかしかやっていないのが分かりました。

何回も同じものを見せられるのは堪らないけれど、オリンピックは、テレビ局の職員には仕事をサボれる絶好の機会なんだろうねえ。きっとみんな早めの夏休みを取っているんだなと思いました。

ところで、見るともなしに見ていたオリンピック中継で感じたこと。  
いつから柔道は、ジュードーという点取りゲームになっちゃったのですかね。

とりわけ、私が見ていた女子柔道のフランスの選手はひどかった。  
相手選手が襟をとるために、手を伸ばしてくると、後ろに下がる、どんなに手を伸ばしてもどんどん下がる。ボクシングじゃあるまいし。

悪質なのは、下がりつつ、掛かるはずがない技をうつ格好をする。  
相手は、どこも捉まえないから、前に出るだけでなんの技もかけられない。

消極的態度で指導がいくかと思えば、後ろに下がるフランス選手を捉まえに前に出ていく  
相手選手の方が指導の対象になったのには驚きました。

結局、一度も技らしい技は出ないまま、指導がなされただけで、時間切れ。  
結果は、フランス選手の優勢勝ち。ドー(デモイイ)メダルでしたよ。

これって、ドー見ても、断じて柔道ではない。  
私が高校の時に教えてもらった柔道は、正々堂々相手と組み合って、拙いけれど、技をかけるのを競うものでした。

この試合を見て感じたのは、日本は、点取りゲームに堕したオリンピックのジュードーなど相手にしないで、武道としての柔道を再興すべきじゃないかということ。  
こんな試合を見せられるのでは、スポーツと銘打っている分、お笑いタレントのわざとらしい素人芝居よりもっと後味が悪いんですね。

あ、気分直しにと、起き上がって庭の水やりをしていますと、お隣のわんこがかけて欲し  
そうな顔をしていましたので、シャワーのようにかけてあげました。

毛皮に包まれたわんこは、熱中症にはかからないのかと思って調べてみますと、わんこは  
結構かかるそうです。



にゃんこはわんこに比べて熱中症にかからないようですが、これは比較的自由に動けるからようで、にゃんこの熱中症は、室内に閉じ込められたときに多いそうです。  
紐に繋がれたわんこには、動ける範囲に日陰を作ってくださいと書いてありましたが、お隣のわんこは大丈夫なようです。

## 8.19 夕立屋

こう毎日暑い日が続き、空に入道雲が湧いているのを眺めていると、「夕立」でも降らないかなと思います。

でも、最近、うっかり「雨、雨」なんていうと、時間 100 ミリの豪雨がきちゃって、お湿りどころか、周り一面、川か湖になりそうだし、あちこちで被害に遭われた方が沢山いらっしゃることを思うと、「夕立」もそのうち、忌語になるんじゃないかと心配になります。

ところで、「夕立」と言えば、江戸小咄の「夕立屋」を思い出しますね。

最近、豪雨が多いのは、夕立屋に誰かが多額の支払いをしているせいじゃないか、なんて勘ぐったりしますが、そんなヤツがいるとすれば、きっとどこかの土建屋さんですかね。

でも、この夕立屋も、だんだん知っている人が少なくなってきて、淋しい限りです。

今日は、暑さ凌ぎに「夕立屋」の江戸小咄のご紹介。

### ♪ チャンチャカチャン

江戸の本店のご隠居さん、毎日続くカンカン照りにウンザリしていると、どこからか「え～、夕立～や、夕立い」という声がするので、小僧さんに呼びにいかせると、隠居所に入って来た夕立屋、今すぐに夕立を降らせてくれるという。

値段はと聞くと、降らせる雨の量と場所、それに雷つきかどうかで値段が違う。

家が流れるほどの場合は、うんと高いが、お湿り程度だとそうでもない。

雷つきだと別料金。

ご隠居、お湿り程度で、隠居所の周りだけ、雷は遠くでごろごろ鳴るだけという条件で、五両一分の料金を支払うと、夕立屋、なにやら呪文を唱えていたかと思う間もなく、ざーっときた。

ご隠居さん、思わず、「お前さん、ただ者じゃないねえ」というと、夕立屋、「実は、あっし、空の上に住んでいる龍でございます」

ご隠居さん、「なあーるほど、でも、この商売、夏は良いけど、冬はどうするんだい」夕立屋、「へえ、寒くなりましたら、あっしに代わって、倅の子龍（コタツ）が参ります」

オシマイ。

これ、落語もあって、夏に聞くと、5万円くらいは払っても良いかなと思えるんだけど、

間違って、夕立屋さんに夏物バーゲン、大サービスなんてやられたら、水に浸かっちゃうかも。

興味と暇のある方は、是非、落語も聞いてみたら少しは暑さもやわらぐかもね。

ところで、夕立に寄せる思いは、昔から変わらないようで、万葉の時代から、歌に詠まれてきましたが、有名なのは、なんとといっても、式子内親王のこの歌。

夕立の 雲もとまらぬ 夏の日の かたぶく山に ひぐらしの声 (新古今 268)

[拙訳]

(さっきまで夕立を降らしていた雲もすっかりどこかに行ってしまって、日が傾いてきた山では、ひぐらしの声だけが聞こえてきます)

これに次いで、私が好きな夕立の句。

夕立が 洗っていった 茄子をもぐ 山頭火

ところで、昔から、夕立のカミナリ様は、男女の仲を結ぶと考えられていたようで、

♪ またひとしきり降る雨に 仲を結ぶの神鳴りや  
互いに抱き大川の 深き契りぞかわしける

なんて、良いですねえ。

これ、永井荷風の「夕立」の中の清元浄瑠璃の一節です。

昔は、夕立も風情がありましたねえ。





## 8.25 夕立の道

このところ、ずっと雨らしい雨が降っていないのですが、先日、カレドニアの海から戻ってきた喫茶店のマスターのところに、お土産もらいに寄ったら、

昨日も一昨日もひどい雨でしたねえ。前の道路なんか川みたいになって、浸水するかと思いましたよー。

エー、うちなんてずっと降ってないよー。

センセ、また、酒食らって、グースカピーでしょ。あんなスゴイ雷でも起きないなんて、さすがですねえ。裸で寝てると、ヘソだけじゃなくて、大事なところに落ちますよー。

おー、電気ショック療法、効果あるかも。いやいや、ホントに降ってないって。

とにかく、雷凄くて、どっか近くの変圧器かなんかに落っこちて、ここら辺り停電だったんだから。センセのところだって停電したでしょ。あ、寝てりゃ関係ないか。

私の家と彼の駅前の喫茶店の距離は、バスで5分。1<sup>キ</sup>あるかないかです。

そういえば、このところ北東の空はガラガラドンドン、うるさいなと思ってはいたのですが、どうせ東京のどっかだと思って、ヘッドホンして音楽聴いてたので、わかんなかったのですね。

それにしても、夕立屋じゃないけれど、そんなに降るゾーンと降らないゾーンがはっきりしてるもの？

調べてみました。

最近のゲリラ豪雨（気象庁様はゲリラが嫌いなんですね。ゲリラ豪雨とは言わないで、「局地的大雨」というのだそうです。）は、小さなものは直径500<sup>mm</sup>というものもあるそうですね。

これは、雨雲や風の方向だけでなく、雨粒の大きさをも把握することができる最新鋭ドップラー・レーダーのネットワークが構築されたことではっきりとわかってきたようで、最近では、予測もできるようになってきたみたいです。

そういえば、昔から、「夕立は馬の背を分ける」といわれていますから、昔の人は最新鋭のレーダーなどができる前から、知っていたみたいです。

さて、それにしても、我が家の附近だけが夕立から取り残されているのはなぜ？

これも、地形と風の流れ道と関係があるようなんですね。

私の住む横浜の北部郊外ゾーンには、恩田川、谷本川という二本の川が走っていて、どうも、その川に沿って風がながれることが多いらしいのです。

夕立の通り道も、その風の流れ道に沿っていて、我が家は、その谷沿いからちょっと離れた小高い丘にあるものだから、どうも少しだけ外れているらしいんですね。

ゲリラ豪雨の場合は、直径が小さいから、毎度、ちょっとした差で、夕立圏外。

そういえば、夕立の通り過ぎるのを眺めている句に、こういうのがありました。

さつきから 夕立の端に ゐるらしき

お、こんなことを書いているうちに、雨が降ってきました。

文句言ったのが聞こえたかな。

涼しくなれば良いんですがね。